

dance today 12 演算するからだ展



気鋭の作曲家、三輪眞弘を監修に迎え、詩人、美術家、音楽家 / アーティストたちがそれぞれの表現の新しい地平に挑戦する、dance today 異色のプログラム

自動車を操縦可能なからだ、そろばん三級のからだ、ロシア語会話可能なからだ、ショパンのエチュード演奏可能なからだ・・・からだは覚え、からだは記憶し、からだはからだを伝える。そしてからだは描き、詩作り、音楽を生み出さずにはいられない。見られるためのからだではなく、刻み込まれた手順を正確に実行するからだ。まさに、そこに立ち現れる大いなる意志こそ私たち誰もが垣間見ているこの世界なのである。テクノロジーの密林に生きる人間たちの孤独なからだは今、絵画が、詩が、音楽が生まれた始源を求め、人間が手にした科学と技術のただ中でその本来の姿を見出すだろう。監修：三輪眞弘

日時 10月16日(土)17:00開演(16:30開場) 17日(日)15:00開演(14:30開場)
会場 神奈川県民ホール小ホール

プログラム(監修：三輪眞弘)

足立智美「方法音楽第8番c」,「方法音楽第9番a & b」(音楽)
鈴木悦久「環・カルテット」(音楽) トム・ジョンソン「Counting Duets」(音楽)
中ザワヒデキ「金額」プリンター・デモンストレーション(美術)
松井茂「純粹詩」(詩) 三輪眞弘「またりさま」(音楽)
安野太郎「ペペ・ピリンバン・ポイ野2」(音楽)

出演：方法マシン(鶴見幸代、さかいいいしう、滝本あきと、深澤友晴、篠田昌伸、池田拓実、
安野太郎、鈴木悦久、楊英美、亀井庸州、杉山モナミ、浅井隆之、松岡大輔、森下雄介)
蛭名優美、西川和佳奈、細川ひとみ、夏田昌和 ほか

両日とも、終演後にアフタートークがあります。

出品作品すべてのコンピュータ・シミュレーションに関連するソフトウェアをロビーで展示します。

チケット 全席指定 前売2,500円 当日3,000円、dance today11&12セット券 3,800円(前売のみ)
県民ホールチケットセンター 045-662-8866、音楽堂チケットセンター 045-263-2255
チケットぴあ 0570-02-9988、e+(イープラス) <http://eee.eplus.co.jp>

主催 財団法人神奈川芸術文化財団 協賛 キリンビール株式会社

お問い合わせ 財団法人神奈川芸術文化財団企画課

プロデューサー：佐藤まいみ 広報担当：宮村

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1 県民ホール内 電話 045(633)3766 FAX045(663)3714

dance today 12

演算するからだ展

足立智美「方法音楽第8番c」(音楽) 演奏する身体の最小原理のみを記譜した極限の音楽。この曲ではもはや音を出すことさえ前提とはなっていない。それでもこれは「音楽の演奏」に他ならない。

足立智美「方法音楽第9番a & b」(音楽) 7手7音階7拍子7小節からなる作品のピアノ版。「連弾」演奏の物理的限界点において、音によって描かれた線が空間を埋めるだろう。副題は「線の消尽」。

足立智美 Tomomi Adachi パフォーマー/作曲家。日本とヨーロッパ各地で、ヴォイス、コンピュータ、自作楽器によるソロ演奏、舞台音楽、ビデオ・パフォーマンスなど幅広い領域で活動している。CDに足立智美『ときめきのゆいぶつるん』(naya records)、足立智美ロイヤル合唱団『yo』(Tzadik)などがある。

鈴木悦久「環・カルテット」(音楽) 決められたルールに従いながら演奏家のその時々判断によって生みだされるものが「即興」ならば、即興とはゲームのことである。マリンバの上で繰り広げられる勝負は同時に即興演奏として聴かれる音楽となり演奏は試合終了まで続く。

鈴木悦久 Yoshihisa Suzuki 打楽器を小島光、岡田知之の各氏に、作曲を三輪眞弘に師事。昭和音楽大学打楽器専攻を卒業後、2004年岐阜県立情報科学大学院大学(IAMAS)を卒業、現在、同アカデミー研究員として在籍。演奏者固有の身体的な任意性を演奏行為から排除した即興演奏をコンセプトに活動。主な作品に「極東のうた」「環・カルテット」「集 Tsu-do-hi」がある。

トム・ジョンソン「Counting Duets」(音楽) システムチックな手法と限定された素材から豊かな音楽を生み出すトム・ジョンソン。5楽章からなる「Counting Duets」は2声部に分かれたプレイヤーがひたすら数を数える音楽。

トム・ジョンソン Tom Johnson 1939年コロラド生まれ。モートン・フェルドマンに作曲を学ぶ。83年よりパリ在住。1972年に作曲された「The Four Note Opera」は多くの国で上演されている。オーケストラと合唱とソリストのための「Bonhoeffer」はドイツの神学者ディートリッヒ・ボンホッフアーのテキストによる2時間の大作で1996年に初演された。

中ザワヒデキ「金額」プリンター・デモンストレーション(美術) スーラの点描画に代表されるような多数のピクセルの集合体としての絵画は現代でもビットマップCGなどの概念として存在している。この作品ではインクジェット・プリンターのノズルと化した人間達が、硬貨によるドットで「色彩平面」としての絵画、「金額」を実際に描く。

中ザワヒデキ Hideki Nakazawa 美術家。1963年新潟生まれ。イラストレーター、マルチメディア・アーティストを経て、1997年から美術家として活動。2000年、詩人、音楽家の立会で「方法主義宣言」。以来Eメール機関誌「方法」を主宰。2002年度文化庁在外派遣芸術家。2003年VOCA奨励賞。個展、グループ展、著書、特許等多数。

松井茂「純粹詩」(詩) 「純粹詩」は、私情を拒否するために、詩を書く行為自体と、書かれた文字の意味自体が一致する「一」「二」「三」という指事の漢字を使用した。語順は、規則的な順列組み替えにより、古代詩の特徴である重ね、繰り返しが生成され、その連鎖から「豊穡な韻律」の文字列が自ずと並ぶ。言語的快楽を忌避し、純粹理性に奉仕する呪文として制作された純粹詩が、今回、その理念にもっとも適った形式で「朗読」される。

松井茂 Shigeru Matsui 1975年東京生まれ。詩人。2001年から「純粹詩」を制作。2002年から「量子詩」を制作。主な活動として、うらわ美術館の「融点・詩と彫刻による」の関連イベントの企画構成。豊田市美術館の「宥密法」。個展「5日毎当日発表」。合唱曲『縞縞』の制作(作曲は鶴見幸代)。

三輪眞弘「あたりさま」(音楽) マタリ地方に伝わるという架空の伝統芸能「あたりさま」。規則に従って肩をたたく8人の男女による鈴とカスタネットの演奏は暗記されたものでも即興でもない。それは、ひとつの間違えも許されない論理演算の結果としてその場で生成される音楽である。

三輪眞弘 Masahiro Miwa 1978年渡独し国立ベルリン芸術大学、国立ロベルト・シューマン音楽大学で作曲を学ぶ。オペラ「新しい時代」、インスタレーション作品「あたりさま人形」、作品集CD「赤ずきんちゃん伴奏器」「東の唄」「昇天する世紀末音楽」シリーズ、「新しい時代信徒歌曲集」「言葉の影、またはアレルヤ」などを発表、その活動は多岐に渡る。IAMAS(岐阜県立情報科学芸術大学院大学)教授。2004年、芥川作曲賞受賞。

安野太郎「ペペ・ピリンバン・ポイ野2」(音楽) 作曲家が音を決めるとはどういうことか？なぜそれは音高やリズムでなくてはならないのか？私は音を人間の行為のみで指定する。笛に開いているいくつかの孔を、その開閉状態の移行過程として構成する。それはnビットの数列としても記述可能であり、その数による「演算」も可能となる。

安野太郎 Taro Yasuno 1979年生まれ。東京音楽大学作曲科卒業。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)卒業。音楽活動は多岐に渡り、オーケストラ、室内楽、ライブエレクトロによる作品などを発表している。近年の活動は、2003年京都ビエンナーレオープニングコンサート出演や、2004年9月にArs Electronicaで発表されるプラスバンドの作品など。

お問い合わせ 財団法人神奈川芸術文化財団企画課

プロデューサー：佐藤まいみ 広報担当：宮村

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1 県民ホール内 電話 045(633)3766 FAX045(663)3714